

2011年3月22日開催 第556回 番組審議会

■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員
國定幸一委員 黒田勇委員 齊藤善也委員 東野博昭委員

■ 毎日放送出席者

河内社長 田中専務 上田専務 松島常務 河村編成局長 梅本報道局長
寺西制作局長 熊ラジオ局長 立野コンプライアンス室長

- ◆ 「東日本大震災」の対応について、報道局長、ラジオ局長、編成局長がそれぞれ報告した。
- ◆ BPO審議番組「イチハチ」2010年11月17日、24日、2011年1月12日放送分について審議した。

各委員の主な意見は次の通り。

- * 「バラエティーだからまあいいか」という安易な気持ちと、視聴率を気にした焦りがあったと感じた。甘い判断をしたその個人を責めるより、事前に指摘し、指導できる体制づくりが必要だ。
 - * あいさつの基本や後日のフォローの重要性など、日ごろの取材というところでもっとも注意しないとイケないのではないか。時代にあわせて常識を変えていかなければいけない。
 - * 番組として形は間違っていなかったと思うが、あまりにもスケールが大きくなり、もっとすごいものはないのかと走り過ぎてしまったところが一番危ないところだと思う。
 - * 金持ちに対する無意識のいわれのない羨望や尊敬のまなざしは一種の差別あるいは一種の偏見であり、番組を制作するにあたって避けるべきではないか。
 - * とても残念だったのは、何人かがおかしいと気づいて発信しているのに、都合が悪い情報は捨てられ、都合のいい情報だけ拾い上げていく過程が見られたこと。
 - * 作り手側の常識と、見ている一般人の常識がずれているかもしれないということも、意識した方がいい。現場と一般の視聴者との間でかなりギャップがあったのではないか。
 - * 事実に基づいてバラエティーを作るのであれば、とことん事実の確認を行わなければならない。嘘を見抜く力量を制作者が磨いていかなければ、見抜けない。
- ◆ 黒田委員、國定委員が番組審議会委員の退任挨拶をした。

以上